

『ひとつに結ばれるために』 エペソ人への手紙1章7～10節 2015.8.30(主日礼拝説教より)

『…神は…みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは…いっさいのものがキリストにあって、天にあるもの地にあるものがこの方にあって、一つに集められるのです。』 エペソ1章 8～10節

『贖い』とは、私たちが元々持っていた神の祝福の回復のこと。ナオミは、嫁ルツの謙虚な信仰と、ボアズの贖い(買戻し)により、失っていた家と畑をを取り戻した。◆『(みこころの)奥義(ムステリオン)(エペソ 1:8)』とは「秘密」のこと。神のご計画は私たちが謙虚に尋ね求めるまでは秘密であり、信仰をもって聞かなければ分からない。どうして自分は病気の？ 何のために生きているの？ …等々は、創り主の奥義であり、不思議なご計画であり、元々豊かな祝福に満ちているもの。その奥義は「あらかじめ定められていた(1:5,9,11)」のだという。天地創造の前から、人も自然も動物も…この世の全てのもものが互いに平和と秩序の関係を保ち、「すべてのものがキリストにあってひとつにされること(1:10)」こそ、贖いの目的だった。◆創世記1章で神が、混沌と闇に包まれていた世界に『光あれ！(4節)』と叫んだ時、光が現れた。その無秩序を照らした光は、太陽ではなく(←太陽・月・星の創造は 14節)、神の平和、神の栄光の輝きだった！『「光が、やみの中から輝き出よ」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださった…(Ⅱコリント 4:6)』。「キリストの御顔にある神の栄光の知識」とは福音のこと。罪から救う光。「一寸先は闇」のような人生の道を照らし、あらゆる境遇で喜び、感謝と希望へと導く光である！◆罪ゆえに人が神を離れた時、アダムはエバを非難し、その子カインはアベルを殺し、地は呪われた。自然破壊！災害！病に苦しみ、愛は冷え、世は労苦で溢れた。キリストの贖いこそが、元々私たちに予定されていた、互いの優しい関係回復への唯一の道である。「すべてのものがキリストにあってひとつにされる」とは、互いが、弱さ・欠け・失敗を、責め、裁き合うのではなく、補い、助け、協力し合うことで、互いが一つに結ばれ、完全にされるという意味である。人は、贖いを通して神の恵みを受け、神と共に歩む者として回復され、元々の祝福も回復され、完全な人生と変えられていく！夫婦、親兄弟…世のすべての人間関係、世のすべてが、協力・共生によりひとつになり完成する。この教会も贖いの恵みで一つに結ばれたい！